

# 発達支援

\*発達支援には、大きく分けると2つの取り組みを実施しています。1つ目は、集団活動による支援です。2つ目は、個別活動での支援です。集団での取り組みと個別での取り組みでは、支援するポイントに違いがありますので、一緒に確認ていきましょう。



## ①集団支援



※「遊び」の発達プロセス

\*親子教室「各町が実施主体。

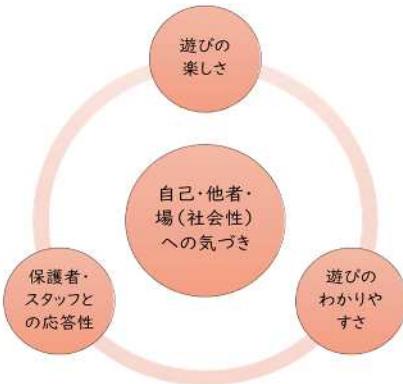
**就園前**までのお子様が対象」

\*地域支援教室「各町が実施主体です。**就学前**までのお子様が対象」

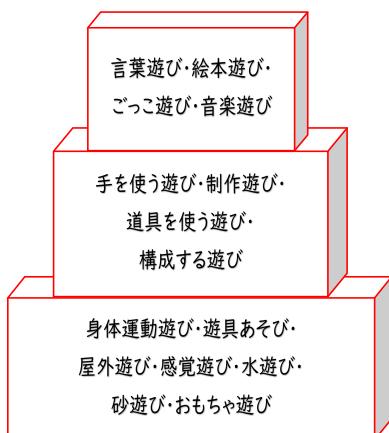
注:実施していない町もありますので、各町保健センター等へお問い合わせください。

\*地域支援教室は、各町が実施している就学前のお子様が対象となります。この教室は誰もが参加できるわけではなく、「就園前から発達が心配」「就園後、うまく集団参加ができない」といった心配や悩みを抱えた方々を対象として実施しているグループ指導です。

\*グループで大切にしていることは、子どもも保護者もスタッフも「遊びって楽しい」と感じことです。4~8名程度のグループで実施し、教えるよりも子どもたちがお互いに「気づき合う」ことをねらいにしています。初めからルールに縛られずに、徐々に場や遊びのルールに気づいてもらえるようにグループをデザインし、進めています。



## ◇遊びの構造図



## ②個別指導(ことばの指導)

\*就園したけど、「夕行・サ行」がうまく言えず、「センセイ」と言ってるつもりだけれど、「チェンチエ」と伝わってしまっている…、なんてことありませんか？園で「ハサミやおはしがうまく使えずに困っている」等の悩みを保護者の方、もしくは就園先の園の先生から相談の依頼を受けることがあります。そういう場合、心理士が「発達相談」を実施させてもらいます。発達相談を行い、その中で必要性に応じて「個別指導(ことばの指導)」を提案・実施させてもらっています。

「個別指導」は、月に1~2回、3か月に1回程度と幅広く、それぞれのお子様の実態に合わせて行います。指導の基本として、幼児期の発達は“身体運動”がベースとなっているという考えをもとに指導プログラムを組んでいます。

例えば、ハサミの操作なら上肢の運動に着目して、指先を使う前にまず肩の可動域を広げるようなボール投げ、左右の手の交互運動としてロープ引きなどを行い、基礎となる力を楽しく取り組めるように工夫しています。